

農業

令和8年6月号
会誌 No. 1744



目次

巻頭言

食料危機予測と安全保障……………三輪睿太郎 3

論壇

今までと違う気候の中で……………村上ゆり子 4

秋期中央農事講演会

令和米騒動を分析する……………荒幡 克己 6
—天災と人災の複合，その要因分析と今後の展望—

農事功績者座談会

地域とともに歩むりんご栽培……………岩渕 壽子・岩渕 勝治 23
—退職後の積極的な経営の展開と地域農業振興の取り組み—
現地指導者のコメント……………田野島義人 29
意見交換……………30

農家の気持ち

兄として誇れる仕事を……………土井 勝矢 39

研究の最前線

千葉県の花花生……………津金 胤昭 40
—発展の歴史と現状，これからの展望について—

農業・農村の現場から

ジェラートからひらく，地域の未来……………澤野 久美 52
—神奈川県平塚市（有）浜田牧場・Gelateria Vega 浜田亮子氏—

私の経営と志

父の思いを受け継ぎ、徳之島で未来につなぐ牛づくり……………田畑 奈々 60
—女性農業者として歩む黒毛和牛繁殖経営—

統計情報

2024年新規就農者調査結果……………62

農政情報……………63

支会インタビュー

大日本農会北海道支会の紹介……………64

大日本農会だより……………65

編集部から……………66

表紙写真説明：シリーズ農村の伝統祭り

せつぺとべ (鹿児島県 ひおき 日置市)

1595（文禄4）年、日置島津家第3代・島津常久が日置八幡神社を総鎮守と定めた頃に始まったとされる、430年以上の歴史を持つお田植え祭りです。日置市の無形民俗文化財にも指定されています。

「せつぺとべ」とは鹿児島弁で「精一杯跳べ」の意。成年式を終えた未婚の青年「ニ才衆（ニセシ、ニセシュ）」が白装束で神田に集い、円陣を組んで焼酎を酌み交わしながら、せつぺとべの歌を高らかに歌い、泥まみれになって力いっぱい跳び跳ねます。その姿には、土をこねて田植えを準備する「足耕」の意味と、害虫を踏み潰す意味が込められており、神様へ精一杯の働きを示すことで一年の豊作を祈願します。

祭りでは虚無僧踊り・棒踊り・鎌踊り・笹踊りなど地域ごとの奉納踊りが八幡神社・鬼丸神社でそれぞれ披露されるほか、高さ約3.5メートルの仮面神「大王殿（でおどん）」が神田に現れ、神事をその大きな目で静かに見守ります。

（写真および文：せつぺとべ活性化実行委員会）